

仙台レーダーで二重偏波気象レーダーの運用を開始しました

仙台レーダーを雨の強さや雨雲の動きを従来よりも正確に捉えられる二重偏波気象レーダーに更新し、本日、令和3年6月11日11時から運用を開始しました。

二重偏波（にじゅうへんぱ）気象レーダーは、水平・垂直の2種類の電波を用いて雨粒の特徴を捉えることで、降水強度を従来よりも正確に観測できるレーダーです。本レーダーの特徴については、別紙をご覧ください。

気象庁では、台風や局地的豪雨等大雨の監視能力を強化し、警報・注意報等の情報を改善するため、今後、全国の気象レーダーを、順次、二重偏波気象レーダーに更新していくこととしております。

今般、気象庁として東北地方で初となる二重偏波気象レーダーを仙台に導入し、本日6月11日11時から運用を開始しました。

これにより、東北地方を中心に、雨の強さや雨雲の動きを従来よりも正確に捉え、現在の雨の降り方の面的分布や「ナウキャスト」等の雨量予測精度の向上が期待されます。

このレーダーの観測結果は、運用開始後から、気象庁ホームページ内の「雨雲の動き」及び気象庁から配信する気象レーダー関連観測資料へ反映されます。

<参考>

気象庁ホームページ 雨雲の動き URL
<https://www.jma.go.jp/bosai/nowc/>



問合せ先：仙台管区気象台 気象防災部 観測課 担当 工藤
電話 022-297-8140 FAX 022-291-5895

- 水平・垂直の2種類の電波（ものさし）を利用
- 水平・垂直の違いを解析し、雨粒などの形や大きさ、雨の強さを推定可能

